

9 学生募集に関する事項

定員規模の大きい大学を中心に、積極的な学部・学科の新設・改組が継続的に行われる中、大学入試においては、経済不況により、受験生が、自宅から通学可能で学費が安い大学を絞って志願する「安・近・少」の傾向が続いている。

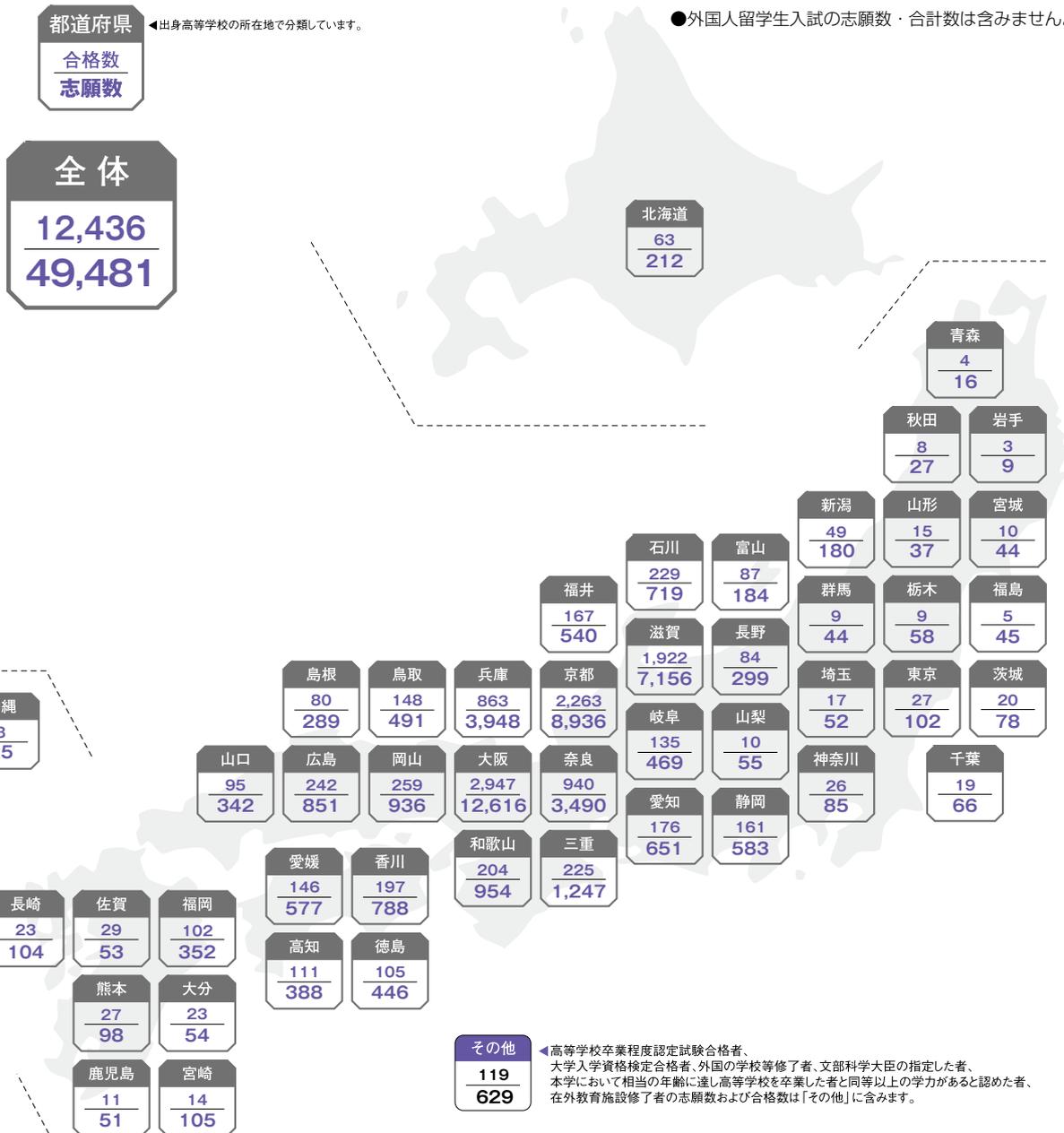
2009年度の2010年度入試においても、「選抜試験出願数50,000人」を継続目標として、「選抜機能が働いてい

る大学」の位置を保持すべく、関西圏の有力校との関係を深めながら学生募集活動を推進した。また、大阪梅田キャンパスを受験生や保護者、高等学校への情報提供等を行う場として積極的に活用したことにより、当該キャンパスは大阪地区における学生募集活動の拠点となりつつある。同時に、地方においては、東海、北陸、中・四国を重点地域と定め、高校訪問をはじめとして、教員対

都道府県別 志願・合格状況〈全入試形態合計（短期大学部を含む）〉

都道府県 ◀出身高等学校の所在地で分類しています。

●外国人留学生入試の志願数・合計数は含みません。



◀高等学校卒業程度認定試験合格者、大学入学資格検定合格者、外国の学校等修了者、文部科学大臣の指定した者、本学において相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者、在外教育施設修了者の志願数および合格数は「その他」に含まれます。

象説明会や入試直前対策講座の開催など、集中的な募集活動を行った。

1 入学試験概要

本学の主な選抜入試として、公募推薦入試、一般入試A日程、一般入試B日程、一般入試C日程、センター試験利用入試〔前期募集〕、センター試験利用入試〔中期募集〕、センター試験利用入試〔後期募集〕を実施した。

●入試制度改革

2010年度入試から、センター試験利用入試〔中期募集〕を新設した。これは、これまで一般入試B日程の一方式であった「センター試験併用方式」を改め、募集人員を新たに設けたものである。これに伴い、センター利用入試〔前期募集〕の出願締切日を大学入試センター試験前に締め切ることとした。

2 学生募集結果

●選抜試験志願数

私立大学全体の厳しい入試環境に加え、経済不況の影響等もあり、本学においても志願数減という結果になった。選抜試験志願数は、2008（2009入試）年度入試は50,825人であったが、2009（2010入試）年度入試は2,662人減の48,163人であった（内訳は、公募推薦入試は1,336人減の10,207人、一般入試は3,607人減の30,084人、センター試験利用入試は2,281人増の7,872人）。

●センター試験利用入試の志願数増

今年度のセンター試験利用入試の出願者は前年度比

140.8%となった。この要因として、センター試験利用入試〔前期募集〕の出願締切を大学入試センター試験前に設定したことによるもの（前年比114.2%）、センター試験利用入試〔中期募集〕の新設があげられる。

3 入学志願者募集活動

●高等学校・予備校訪問

近畿圏を中心として延べ1,000校余りの高等学校・予備校を訪問し、本学の教学内容や入試制度の周知・浸透、出願の促進を図った。また、課長職位者による有力高等学校への訪問活動についても継続して実施した。

●本学主催イベントの開催

本学を志望する受験生やその保護者との重要な接触機会である「オープンキャンパス」は、在学生の活躍する場を多く設けた上で6日間（深草学舎4日間、瀬田学舎2日間）開催し、合計11,895名の参加者（前年度11,956名）があった。また、公募推薦入試、一般入試の出願時期に実施している「入試直前対策講座」については、本学志願動向を加味して開催会場や内容を検討した結果、近畿圏の他、学生募集重点地域である金沢・高松・岡山など計22会場（前年度21会場）で開催した。

●進学相談会および出張模擬講義への参加

全国各地で開催される「進学相談会」へは、入試アドバイザーの協力のもと105会場（前年度95会場）へ参加した。また高等学校が主催する出張模擬講義や学問分野説明会、大学説明会に際しては、入試部スタッフのほか、各学部教職員が積極的に参加し、大学の総力をあげて学生募集に取り組んだ。